

京都女大家政 ○ 畠山絹江 青木美保子

大阪府大総科 長江貞彦 飯田尚紀

目的 衣服パターンの自動製図システムは、アパレル業界だけでなく学校教育の場でも導入していく必要が生じてきている。本研究では衣服原型の自動製図から更に発展させ、ブラウスのデザインに適した衣服パターンの自動製図化を試みた。

方法 使用した機種は、富士通のパーソナルコンピュータFM-11にグラフテック社のXYプロッタを接続したものである。身頃、袖原型は文化式の作図法をとりあげた。ブラウスのデザインは身頃3種類、袖5種類で、身頃、衿、袖の組合わせによりデザインの変更ができるようにプログラムを作成した。パソコンの操作は全て対話形式にし、作図の出力はディスプレイ用とプロッタ用の両者を利用できるようにした。また、従来衿および袖の作図はできあがった身頃のパターンをメジャーで実測し、この寸法を用いていたが、本研究ではこの作業をコンピュータで演算処理させるようにした。

結果 (1) 衿つけ寸法、袖つけ寸法などの自由曲線部分の周長演算について、実物パターン上の実測値と比較すると0.4%の誤差であった。この誤差は採寸時や近似値演算処理の過程における累積誤差と考えることができ、得られたデータは精度的にみても十分に利用できると思われる。

(2) ヨークの切り替え位置やギャザー量などはINPUT文で入力値にしているため、個人の好みに応じてデザインを変えることができる。

(3) 開発したプログラムを実行することにより、製図に要する時間が短縮され、かつ正確に作図することができ、製図の効率化が認められる。